

株式会社フィックスターズ

2022年9月期 第1四半期決算補足説明資料

2022/2/10

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2022年9月期 第1四半期 決算説明

- 高速化サービス等のソフトウェア関連が好調

- 売上高 : 1,401百万円 (前年同期比+13.2%)
- 営業利益 : 290百万円 (前年同期比+88.0%)

- Solution事業は着実に事業を推進

- 高速化サービスを中心に旺盛な需要
- 需要に応えるべくエンジニアの採用に注力

- SaaS事業では積極的投資、収益化に向けた活動を継続

- 量子コンピューティング事業において専門子会社（Fixstars Amplify）を設立
- GENESISはルネサス社向けサービスに注力、取引拡大を狙う
- サービス開発の状況に合わせて販促活動を予定

連結損益計算書

Solution事業が業績をけん引。

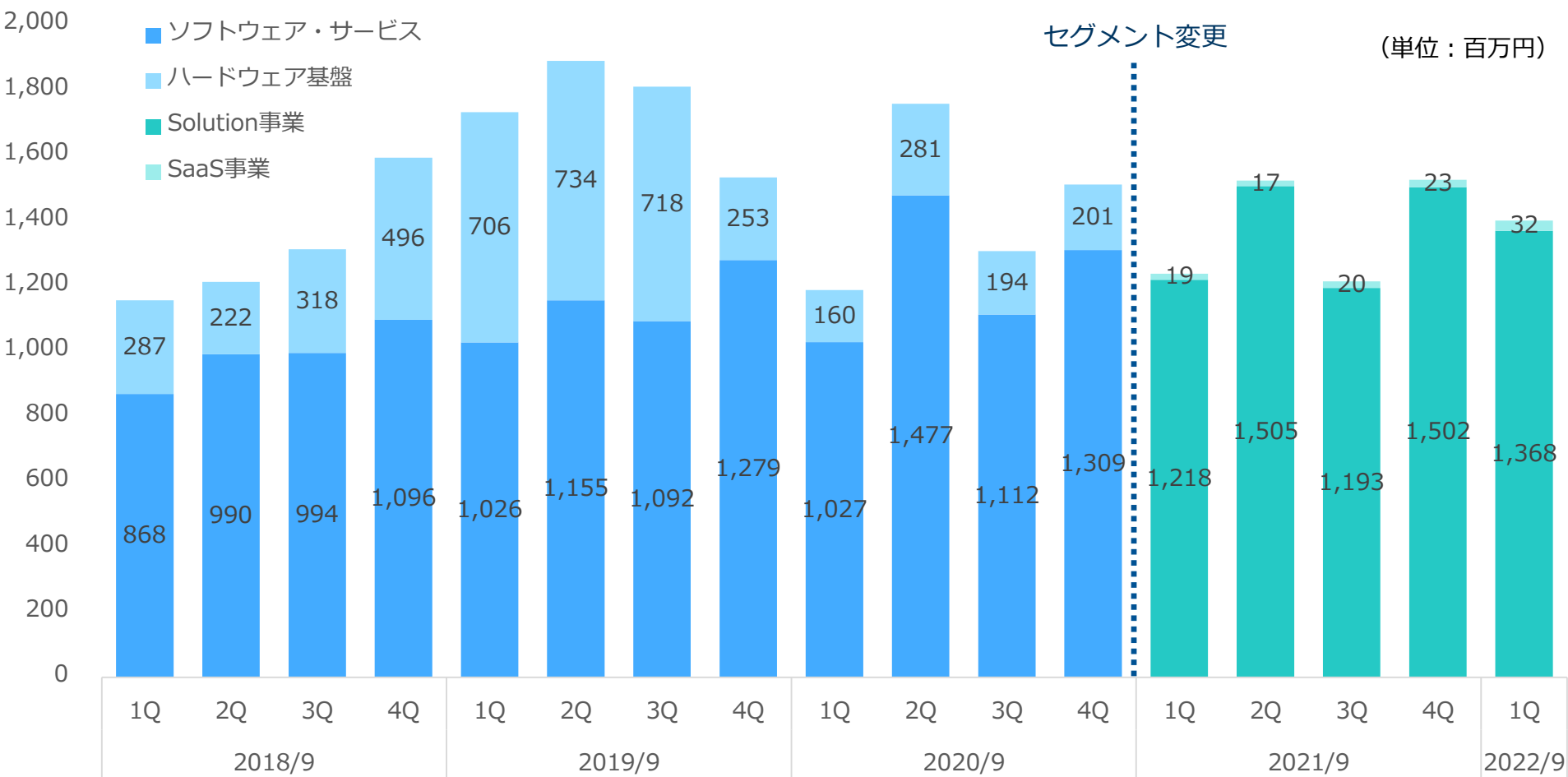
利益率は大幅に改善も、主にSaaS事業における今後の販促活動拡大等を見据え業績予想は据え置き。

(単位：百万円)	2021年9月期1Q	2022年9月期1Q	
	実績	実績	前年同期比
売上高	1,238	1,401	+13.2%
営業利益	154	290	+88.0%
売上高営業利益率	12.5%	20.8%	+8.3pt
親会社株主に 帰属する当期純利益	81	170	+108.4%
売上高当期純利益率	6.6%	12.1%	+5.5pt

売上高

Solution事業の売上が大半を占める状況。SaaS事業については今後の飛躍的成長を目指す。

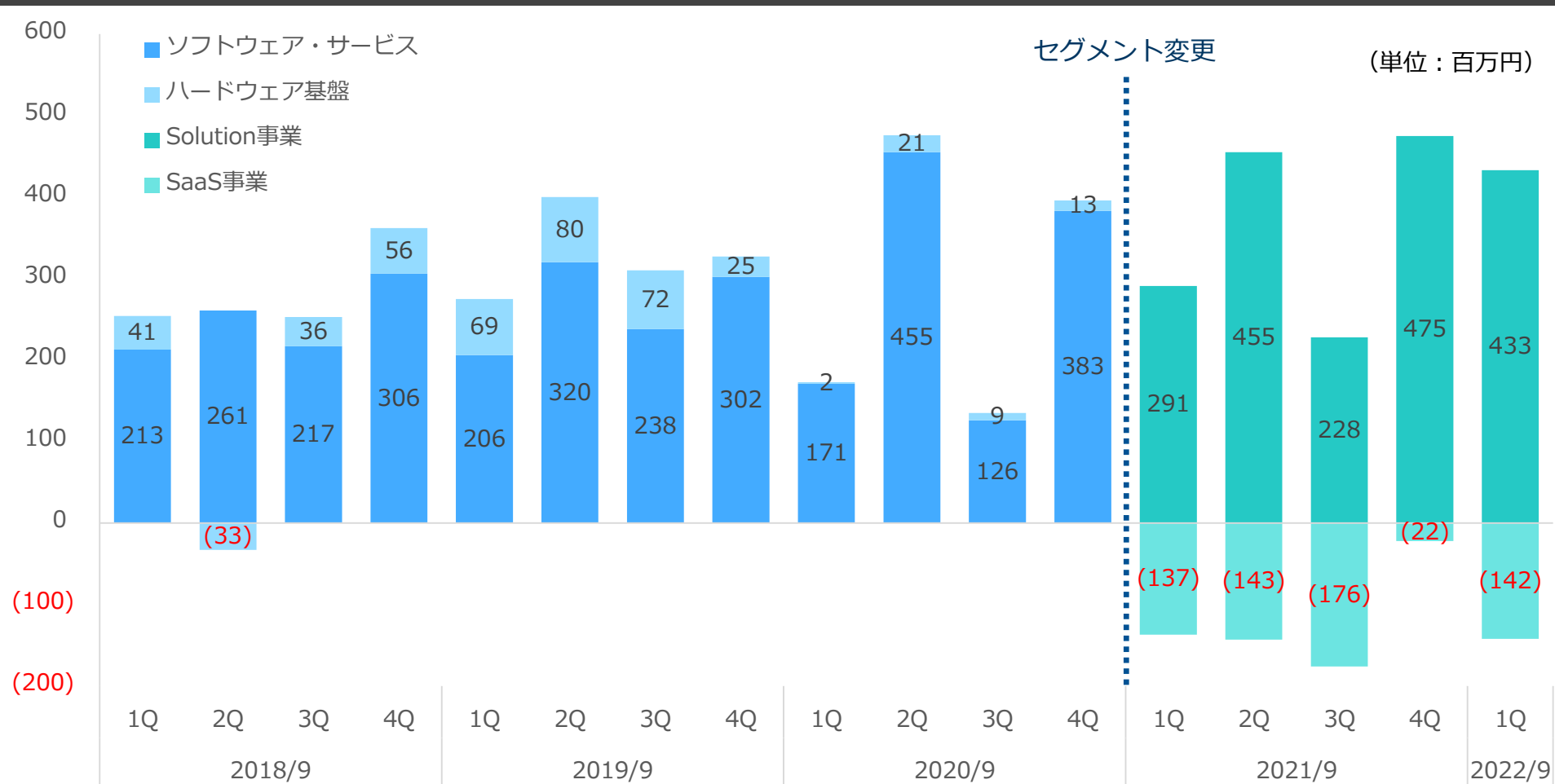
新収益認識基準の適用により、四半期毎の変動はある程度平準化される見込み。



営業利益

新収益認識基準の適用により、四半期毎の変動はある程度平準化される見込み。

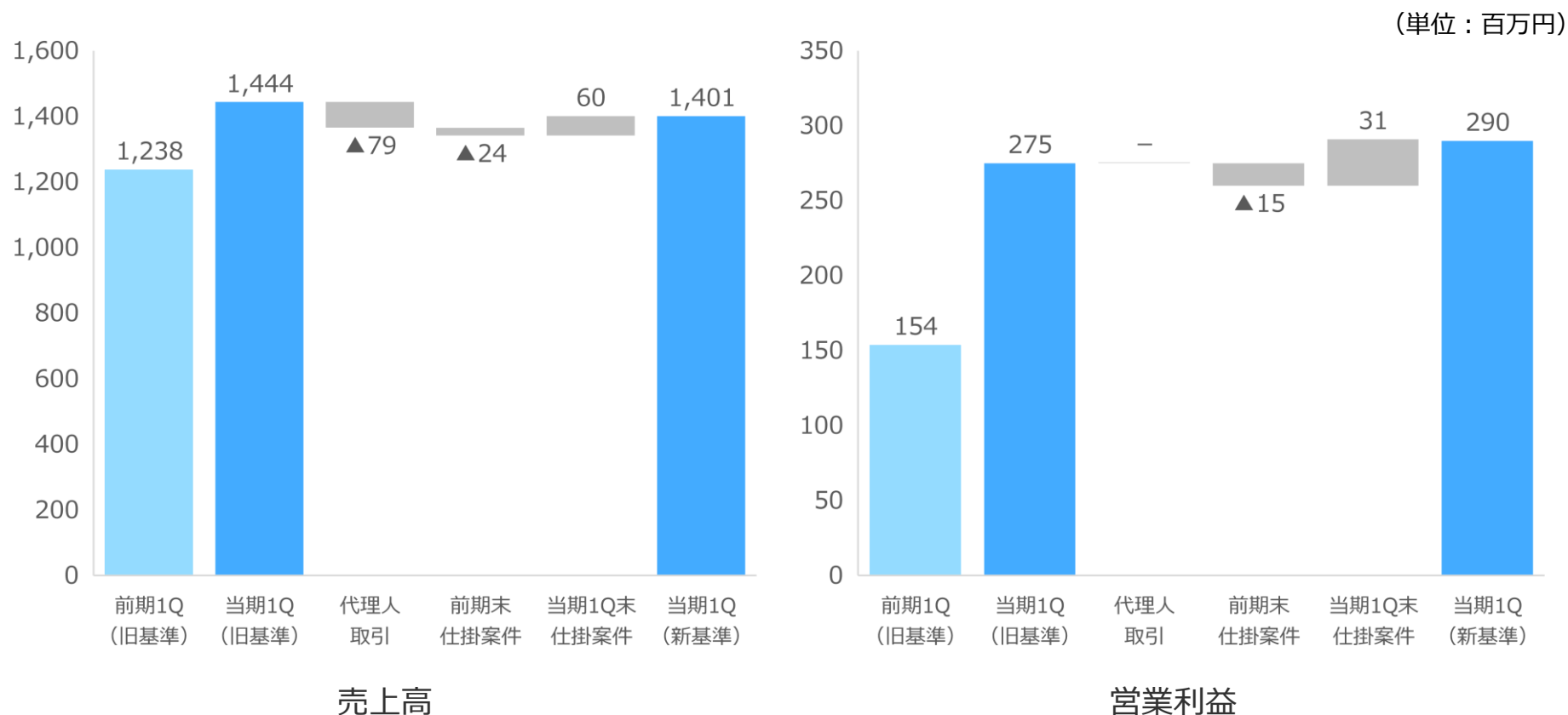
SaaS事業へは前期と同様に積極的な投資を実施。前期4Qの赤字幅縮小は補助金の受入による一時的なもの。



新収益認識基準の適用

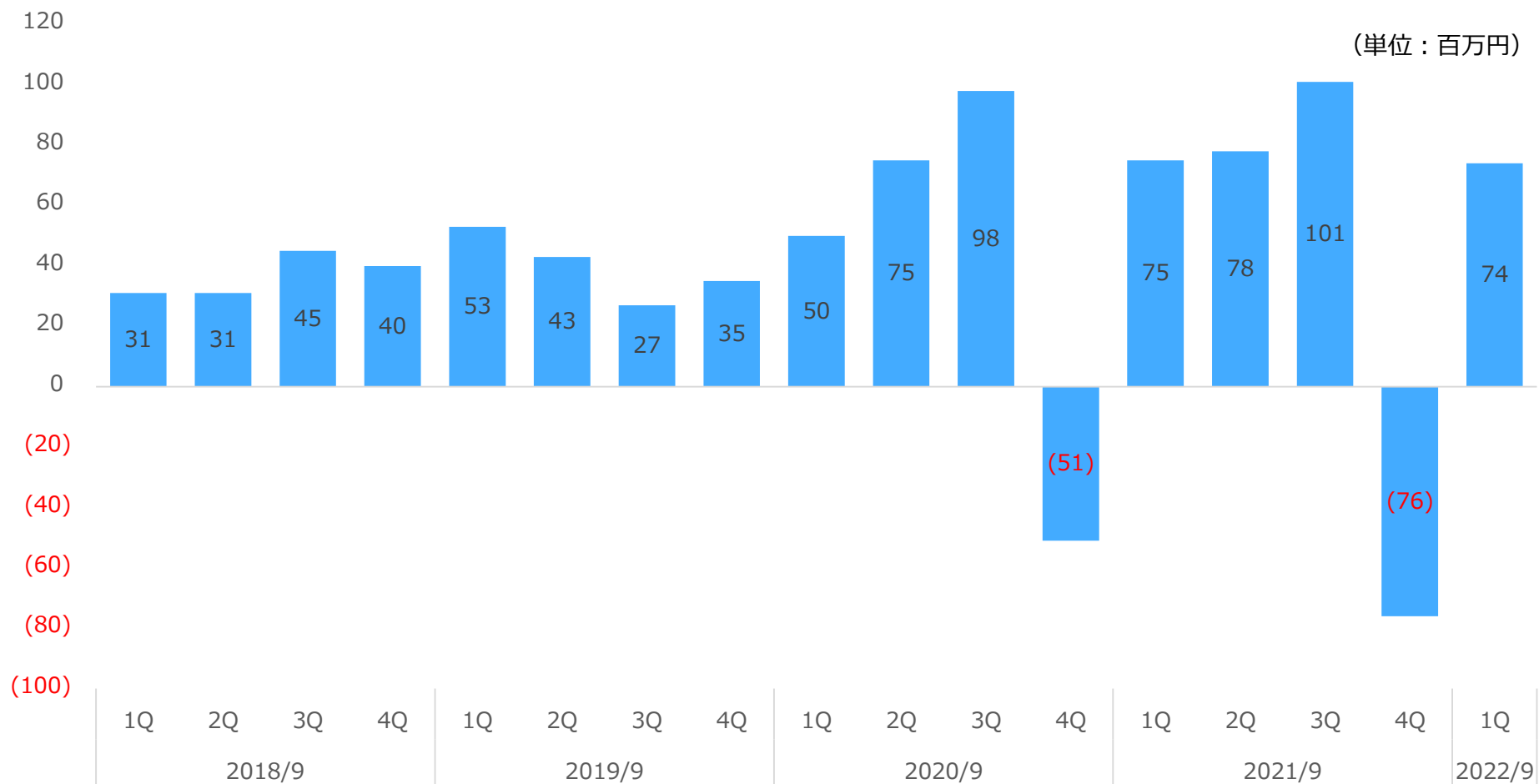
ハードウェア販売案件の大半において、代理人取引として収益を純額計上

期末時点で仕掛中のソフトウェア開発・高速化サービス案件の一部において、案件の進捗度に応じた収益を計上



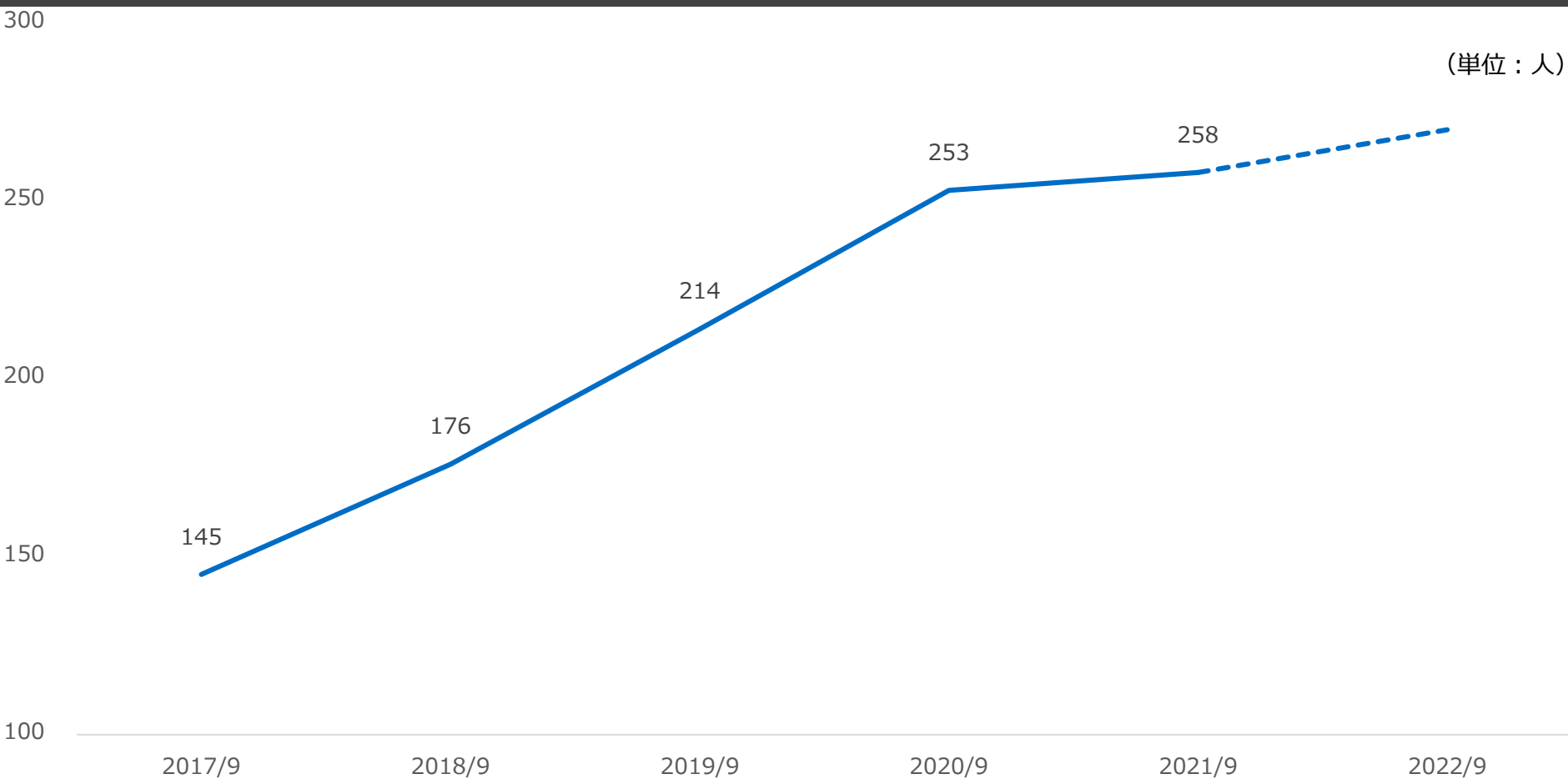
研究開発費

新規SaaS事業向けの研究開発を継続。中長期の研究開発活動においてはNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。
研究開発費は前期と同程度の水準を見込む。



社員数推移

採用活動に注力し、様々なチャネルを利用した活動を実施中。
当期において10~20名程度の純増を図る。



2

2022年9月期 通期業績予想

・ 主力のソリューション事業の着実な成長、SaaS事業の成長加速

新規事業への投資・販促活動、採用活動等による販管費増を見込む

- ・ 売上高 : 6,500百万円 (前期比 +18.1%)
- ・ 営業利益 : 1,100百万円 (前期比 +13.2%)

・ Solution事業は全体に堅調な成長を見込む

- ・ モビリティ等を中心とした高速化ソリューションに対する旺盛な需要
- ・ SaaS事業に関連したSolution事業の受注については前期に一定の成果
GENESIS/Amplifyを中心に、より一層の受注拡大を見込む
- ・ 成長のための人材確保に注力

・ SaaS事業は売上成長の加速フェーズへ

- ・ ユーザの声を聴きながら各製品の改善を重ねる
- ・ 向上した製品力を背景に、売上の成長加速を狙う
- ・ パートナーとの協業によるサービス展開
- ・ 成長のための事業育成投資・研究開発投資を継続

連結損益計算書・配当金

増収・増益を見込むも、Solution事業を中心に採用活動への注力、SaaS事業を中心に販促活動の拡大を予定しており、営業利益率は前期比で低下見込み。SaaS事業子会社の損益改善により連結での税負担率が低下し、純利益率は上昇の見込み。配当は連結配当性向30%を目安に実施予定。

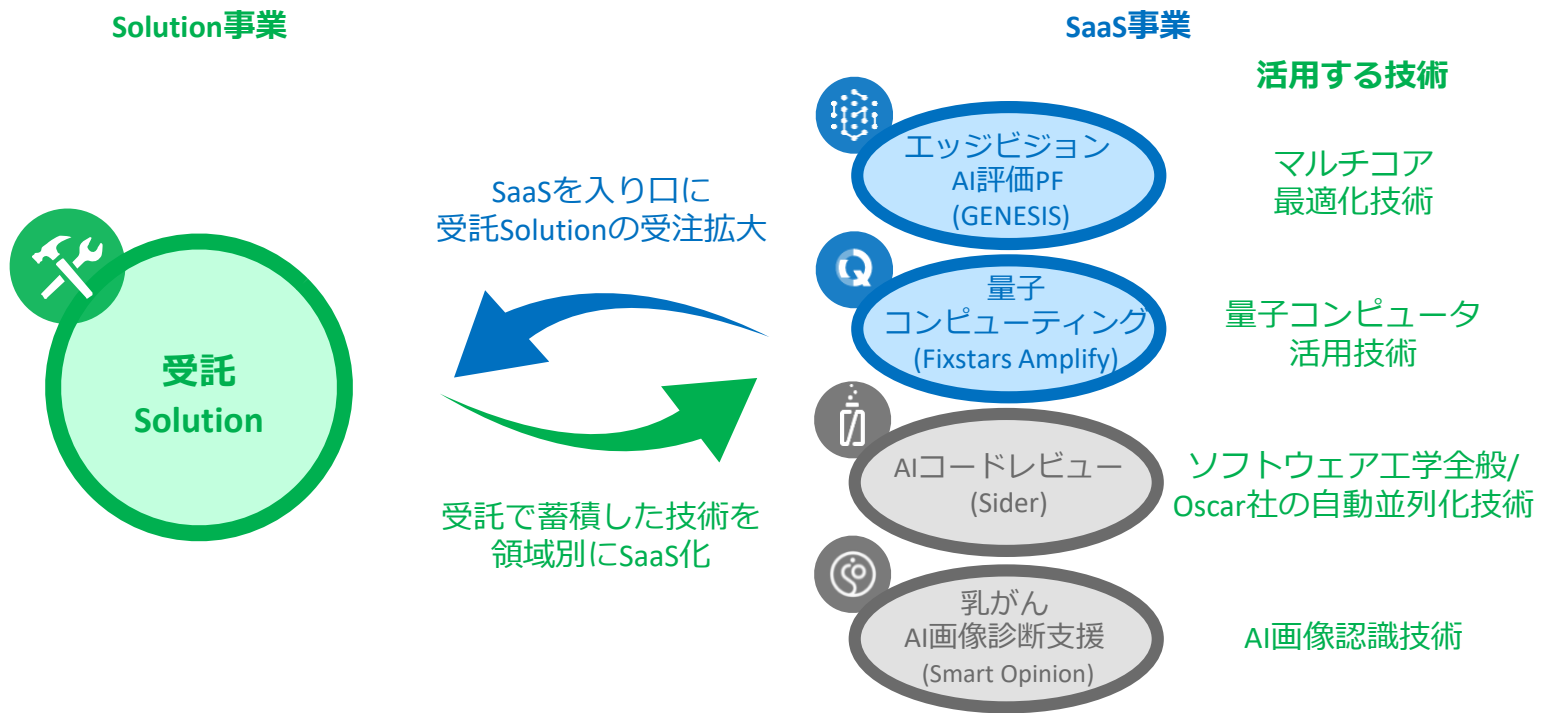
(単位：百万円)	2021年9月期	2022年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	5,501	6,500	+18.1%
営業利益	972	1,100	+13.2%
売上高営業利益率	17.7%	16.9%	▲0.7pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	543	700	+28.9%
売上高当期純利益率	9.9%	10.8%	+0.9pt
1株当たり当期純利益	16.64円	21.53円	+29.4%
1株当たり配当金	5円	6円	+1円

3

補足資料① SaaS事業の状況

Solution + SaaS のハイブリッド収益モデルへの転換

当社が強みとする技術を領域別のSaaSに展開し、成功の確度を保ち、リスクを低減しつつ成長率の飛躍をねらいます。
さらに、SaaSを入り口として受託Solutionの受注にもつなげ、SolutionとSaaSのシナジーを構築していきます。



- 高付加価値・高単価の受託による高速化ソリューションの提供（人月モデル）
- 先端技術の蓄積により、成長領域において他社より先に案件を確保。安定的で着実に成長

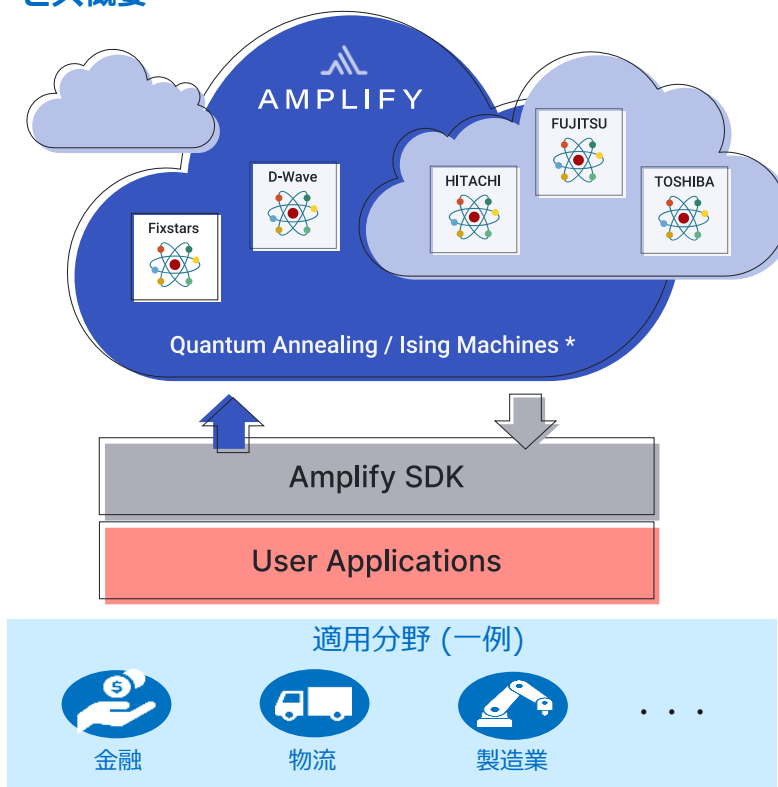
ビジネスモデル 当社の強み

- Deep Tech SaaSビジネスによるリカーリング売上の拡大（継続課金モデル）
- 受託で培った技術を用い、初期投資とリスクが低減できる領域で展開。飛躍的成長を目指す

量子コンピューティング事業

多くの量子コンピュータ・イジングマシンを透過的に扱うことができる、Fixstars Amplifyクラウドサービスを展開。
量子コンピューティングのデファクトスタンダードを目指します。

サービス概要



事業の状況

- ☑ 2021年10月に専門の子会社「Fixstars Amplify」を設立
- ☑ 製造業での生産計画、CPS(Cyber-Physical System)等においてクラウドサービスの実運用導入に対するPoCが複数進行中
- ☑ 研究用途での導入も企業・大学を中心に進む

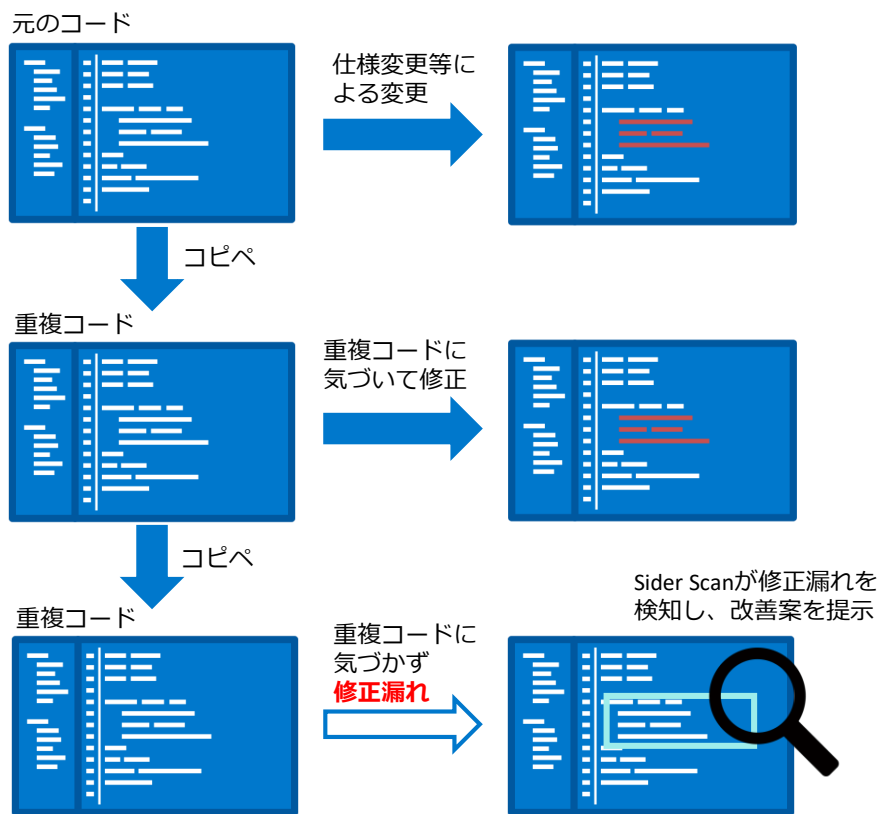
今後の施策

- ☑ 組み合わせ最適化問題に特化した分野でSaaSサービスを立ち上げる
- ☑ 実運用事例を増やすべく大学や産業界と連携し、実社会問題を1つずつ解決していく
- ☑ 量子コンピューティングクラウドプラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す

AIコードレビュー “Sider” 事業

ソフトウェア開発において、完成したコードを第三者の目でレビューする「コードレビュー」は必要不可欠となりつつあります。本事業では、AIによる自動のコードレビューを提供し、あらゆる開発プロジェクトの品質を劇的に向上させます。

新製品「Sider Scan」の概要



事業の状況

- 新製品「Sider Scan」のバージョンアップを重ねる
 バグの温床であるが、既存のツールでは検出できなかった重複コード（コピペの結果生成される類似のコードブロック）に起因するコードの問題を自動検出し改善提案¹
- Sider Scanは複数の国内大手企業と年間有償契約を締結
 米国でも複数の大手企業とトライアル開始
- ソフトウェアの品質保証・テストを手掛けるSHIFT社と販売代理店契約を締結し、同社顧客への導入を推進

今後の施策

- ソースコード分析エンジンをAIを用いてより賢く指摘できる問題の範囲を広げていく
- ソフトウェア開発のワークフローに違和感なく入り込むような、使い勝手の良さを追求
- グローバルにサービスを提供し、世界シェアNo1を目指す

Note: 1) 特許申請中技術

エッジビジョンAI評価プラットフォーム“GENESIS”事業

自動運転やFA等、様々な分野で利用拡大が見込まれるエッジビジョンAI/IoT向けのクラウド評価環境です。

ビジョンAIなどのアプリを自動でデバイスに最適化した上で性能評価し、最適なハードウェア選定を可能にします。

サービス概要



事業の状況

- 開発プラットフォームから評価プラットフォームへ
 デバイスのサプライヤ側にフォーカス。当社の技術により
 デバイスの性能を最大限に引き出すとともに、開発者による
 デバイス評価の手間を削減し、組み込み機器へのデバイス
 採用に繋げる
- ルネサスエレクトロニクス社に導入、同社内での活用促進
 のために注力

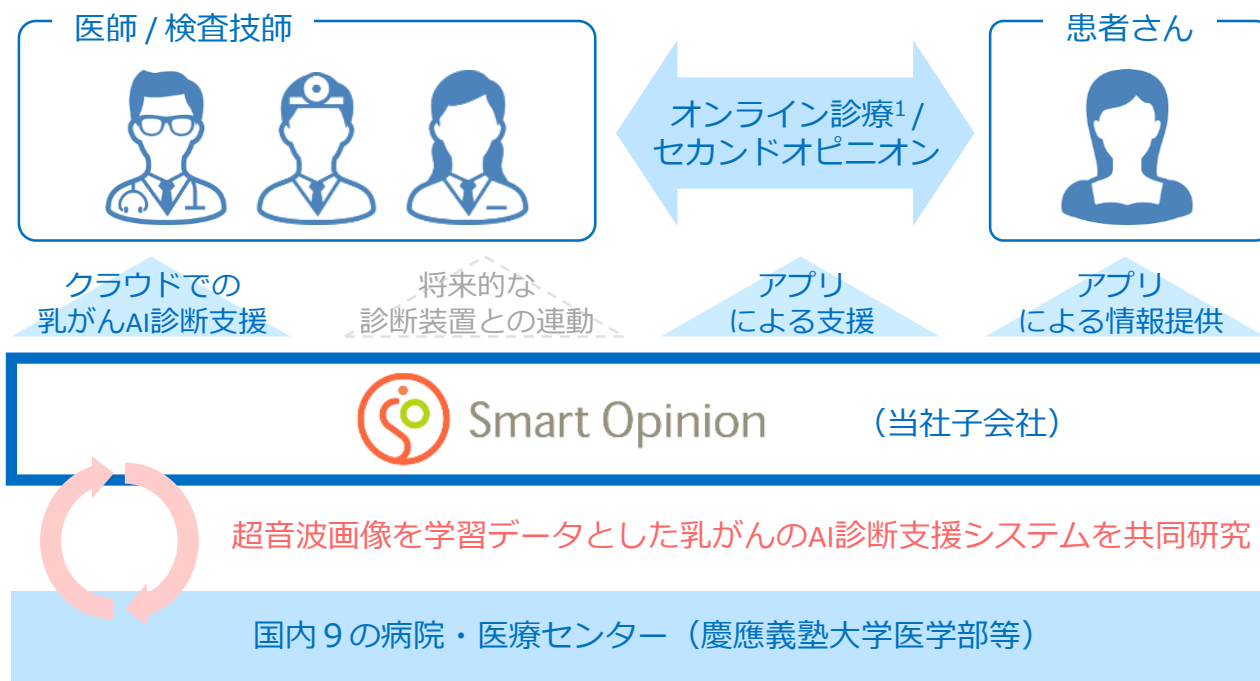
今後の施策

- 開発者が容易にハードウェア評価を行える環境を構築し、
 サプライヤの営業活動を効率化
- GENESIS上で評価可能なハードウェア・アプリケーション
 を増やし、開発者の利便性を向上
- 次世代のAIエッジビジョン/IoT向けハードウェアの評価
 環境として成長

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

サービス概要



事業の状況

- AIの開発を進めるとともに、PMDA認可取得に向け活動中
AIの有用性が学会等で高評価

今後の施策

- 早期にサービス開始すべく、PMDA認可取得に向けた活動を継続
- クラウドでの診断支援サービスで、病院側での初期投資のないサービス提供を図る
- 超音波診断装置と連動したサービス提供を目指す

Note: 1) コロナ禍における対応として、Smart Opinion社では既にオンライン診療サービスの提供を開始しています。

4

補足資料② フィックスターズについて

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、コンピュータの性能を最大限に引き出し大量データの高速処理を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都港区芝浦3-1-1 msb Tamachi 田町ステーションタワーN 28階
設立	2002年8月
上場区分	東証一部（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聡
資本金	5億5,446万円（2021年9月現在）
社員数（連結）	258名（2021年9月現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス 株式会社日立製作所 キヤノン株式会社

グループ体制

株式会社フィックスターズ

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV
自動運転向けソフトウェア開発に特化

Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社
米国での営業及び開発を担当

株式会社Sider

100%子会社
新規SaaS事業“Sider”を担当

株式会社Smart Opinion

連結子会社
乳がんAI画像診断支援事業を担当

オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社
ソフトウェア自動並列化サービスを提供

株式会社Fixstars Amplify

100%子会社
量子コンピュータ関連のクラウド事業を担当

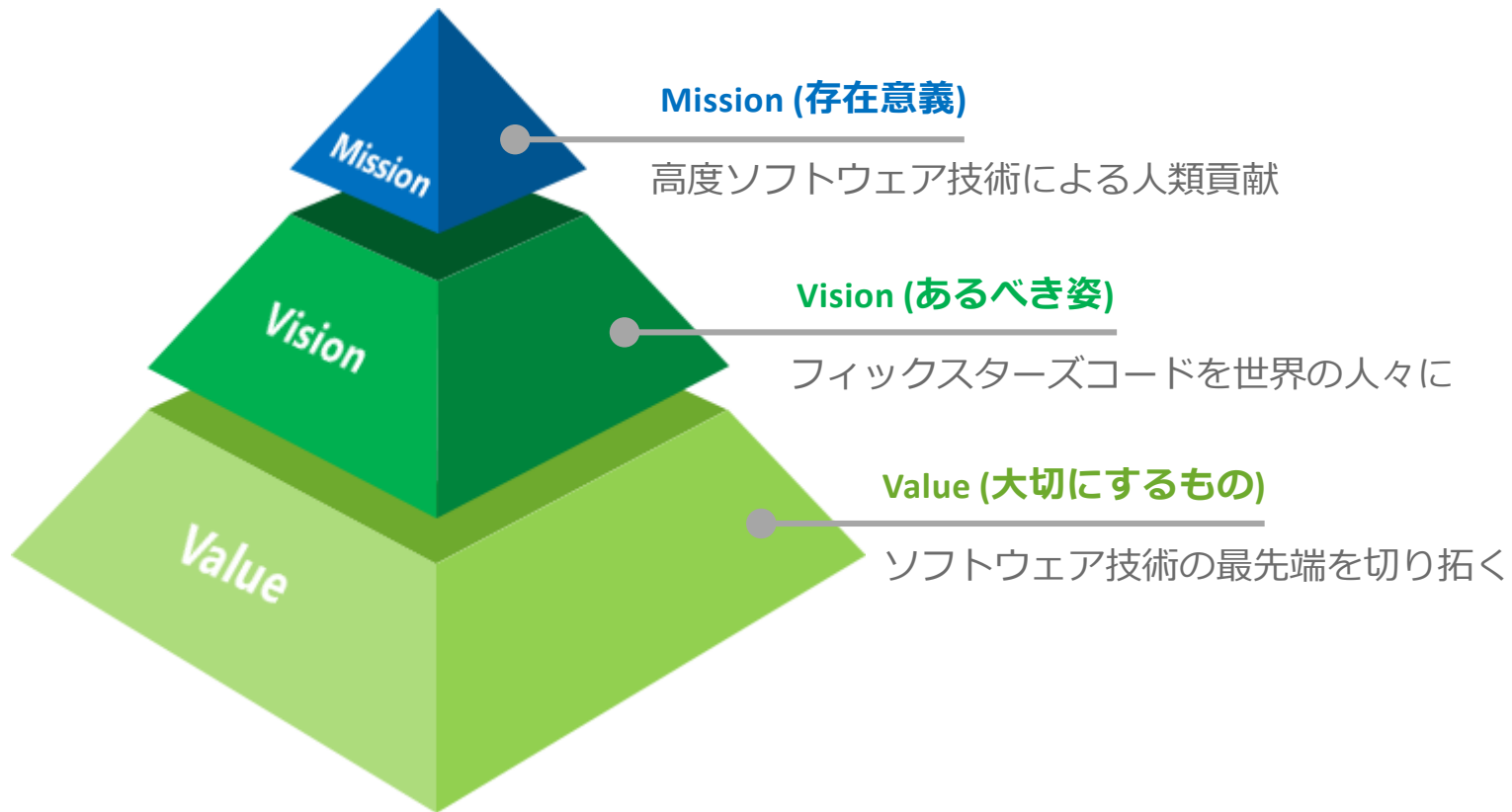
コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2006年 12月	PlayStation®3の発売を受け、「PS3® Information Site」を立ち上げ
2009年 12月	「OpenCL入門ーマルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合併会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2020年 3月	自動並列化技術に強みを持つオスカーテクノロジー株式会社の株式を取得、連結子会社化
2021年 10月	量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立

コンピュータの恩恵を人々に

コンピュータの性能を最大限に引き出す高速化技術を軸に、ESGをはじめとする人類社会の課題解決に貢献しています。



高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

多様な産業分野における高速化ソリューション

Semiconductor

- ・ NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・ 次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility¹

- ・ 自動運転の高性能化、実用化
- ・ 次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

Life Science

- ・ ゲノム解析の高速化
- ・ 医用画像処理の高速化

Finance

- ・ デリバティブシステムの高速度化
- ・ HFT(アルゴリズムトレード)の高速度化

Industrial

- ・ Smart Factory化支援
- ・ マシンビジョンシステムの高速度化

数倍～数百倍の高速化による
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化 (1車種) のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる (当社推計)

高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域

社会的価値



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

交通事故の根絶
交通弱者へのサポート



AIによる画像診断支援

より気軽でより質の高い
診断・治療へのアクセス



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



当社

オリジナルソースコードのご提供

高速化したソースコード



お客様



コンサルティング



高速化



サポート

- 性能評価
- アルゴリズムの改良・開発
- レポートやコードへのQ&A
- ボトルネックの特定
- ハードウェアへの最適化
- 実製品への組込み支援
- レポート作成

